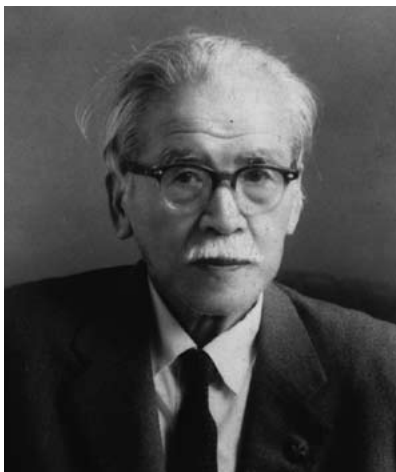


あべ よししげ 安倍 能成 (1883~1966)



学習院院長。哲学者。松山城下(現、松山市)出身。東京帝国大学文科大学(現、東京大学)で哲学を学んだ後、慶應義塾大学・法政大学・第一高等学校(現、東京大学)などの講師や教授を歴任。哲学、哲学史研究のため、ヨーロッパへ留学し、帰国後、京城帝国大学教授、同法文学部長、第一高等学校校長を歴任した。太平洋戦争終戦後は、幣原喜重郎改造内閣で文部大臣に就任して戦後の教育制度改革に尽力し、大臣退任後は帝室博物館総長・国立博物館館長を一時務め、新制学習院院長となって亡くなるまで在任した。また、平和運動にも参画し、岩波書店の総合雑誌『世界』創刊期の代表責任者となり、一方で昭和23(1948)年結成の「平和問題談話会」の議長となった。

戦前・戦後を通じて一貫した自由主義者であり、戦前の軍国主義に対する批判のみならず、戦後の社会主義への過大評価に対しても批判的な態度を取った。また、カント哲学の第一人者で、『カントの実践哲学』、『西洋古代中世哲学史』をはじめ、読売文学賞を受けた『岩波茂雄傳』、そのほか『戦後の自叙傳』など、多くの著書がある。

略歴

明治16(1883)年12月23日	松山城下の小唐人町 <small>ことうじんまち</small> に生まれる。
明治42(1909)年7月	東京帝国大学文科大学を卒業
大正13(1924)年6月	哲学、哲学史研究のため、1年4か月間、イギリス、フランス、イタリア、ドイツに留学する。
大正15(1926)年4月	京城帝国大学教授に就任
昭和3(1928)年9月	京城帝国大学法文学部長に就任
昭和15(1940)年9月3日	第一高等学校長に就任
昭和20(1945)年12月19日	貴族院議員に勅選
昭和21(1946)年1月13日	文部大臣に就任
8月	国語審議会会長に就任
8月15日	帝室博物館総長に就任
8月31日	貴族院憲法改正特別委員会委員長に就任
9月7日	教育刷新委員会委員長に就任
10月18日	学習院院長に就任
12月24日	女子学習院院長に就任
昭和24(1949)年4月1日	学習院大学学長に就任
昭和41(1966)年6月7日	病氣療養のため入院していた順天堂大学医学部附属医院において、82歳で永眠 墓所は神奈川県鎌倉市山の内の東慶寺

〈関連図書〉

- ・安倍能成『戦後の自叙傳』 新潮社 1959年
- ・安倍能成『我が生ひ立ち-自叙伝-』 岩波書店 1966年
- ・安倍能成『安倍能成選集』 日本図書センター 1997年
- ・安倍オースタッド玲子『安倍能成と夏目漱石』 漱石研究第13号 翰林書房 2000年
- ・『愛媛人物博物館 人物探訪第5集』 愛媛県生涯学習センター 2003年
- ・山下一郎『安倍能成先生 学習院中興の祖』 成蹊堂 2004年
- ・青木一平『安倍能成関連資料の全体像(上) 愛媛県生涯学習センター所蔵資料を中心として』
『近代史研究 第9号』 2009年
- ・青木一平『安倍能成関連資料の全体像(下) 愛媛県生涯学習センター所蔵資料を中心として』
『近代史研究 第10号』 2010年

〈主な収蔵資料〉…(P198~200, 26~31)

〈ゆかりのある場所〉…(P272~273, 36~37)